

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月13日
【四半期会計期間】	第28期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）
【会社名】	オーウイル株式会社
【英訳名】	O' will Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小口 英器
【本店の所在の場所】	東京都港区北青山一丁目2番3号
【電話番号】	(03)5772-4488(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 管理本部長 栗野 恵介
【最寄りの連絡場所】	東京都港区北青山一丁目2番3号
【電話番号】	(03)5772-4488(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 管理本部長 栗野 恵介
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第27期 第3四半期連結 累計期間	第28期 第3四半期連結 累計期間	第27期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	21,724,074	20,805,136	27,443,865
経常利益(千円)	364,587	279,212	393,347
四半期(当期)純利益(千円)	223,411	157,606	225,637
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	246,256	174,318	302,137
純資産額(千円)	1,578,571	1,714,275	1,634,452
総資産額(千円)	8,451,942	8,591,195	8,154,668
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	70.93	50.04	71.63
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	18.7	20.0	20.0

回次	第27期 第3四半期連結 会計期間	第28期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日	自平成25年10月1日 至平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	6.41	1.41

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### （1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済・金融政策を背景に、株価が上昇し、企業収益に改善がみられるなど、景気回復への明るい兆しが見えてきております。しかしながら、円安による輸入品価格の上昇や来春の消費税増税による消費低迷への懸念など、景気の先行きは、引き続き不透明な状況で推移いたしました。

食品飲料業界におきましては、景気回復への期待感から消費者マインドは改善傾向にあるものの、食品原材料価格は高い水準で推移しており、物価上昇等への懸念から消費者の生活防衛意識は依然として高く、取巻く経営環境は厳しい状態が続いております。

このような状況下、当社グループは、「お客様に十分ご満足のゆく商品・サービスの提供」を品質方針として、安心かつ安定的な食品原料及び資材の供給を継続し、サービスの向上に努めるとともに、付加価値の高い新規商品の提案を積極的に行い、取扱品目の増加や取引先の拡大に努めてまいりました。一方、品質が良く安価なものが求められていることや商品のライフサイクルが短くなっていることから、時代に即したコスト構造の最適化を図ることが急務となってきております。当社グループは、企業グループの将来を見据えて、新規の案件に着手する傍ら、既存取引の見直しを行いました。また、前年同期は好調であった機能性食材の販売が当期は伸張しなかったことやコンビニエンスストア1店舗を平成25年10月に新たに新店舗に出店したことから収益状況は厳しく、その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は20,805,136千円（前年同期比4.2%減）、営業利益は247,854千円（前年同期比30.5%減）、経常利益は279,212千円（前年同期比23.4%減）、四半期純利益は157,606千円（前年同期比29.5%減）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。

#### <卸売事業>

飲料市場においては、国内市場が飽和状態であることから企業再編やグローバル展開が加速し、企業間の競争は激化しております。このような状況下、当社グループは、取引先のニーズに応えるべく、国内外から原料資材の確保に努め、安定供給体制を維持する一方、取引先の拡大や利益率の改善に努めてまいりました。ルイボス茶等の茶葉などの農産物及び同加工品の販売が伸張したものの、低利益率の飲料製品の販売を一部見直したことにより、売上高は20,218,151千円（前年同期比4.8%減）となりました。

#### <製造販売事業>

安心で安全な商品をお客様にお届けするために、品質管理面の強化に注力する一方、NBブランドの強化を図るため、「やさしいあいすくリーむ」の拡販に努め、個食用のアイスが好調に推移いたしました。また、お客様のニーズに合わせたPB商品の開発を取引先と共同で行い、業務用アイスの販売数量が増加し、売上高は379,934千円（前年同期比0.4%増）となりました。

#### <その他>

その他においては、コンビニエンス事業を大手町地区に5店舗展開しております。再開発が進行している大手町地区に平成25年10月に新たに1店舗開店したことや大手町地区内において既存店舗の認知度が向上し日販が増加したことにより、売上高は650,981千円（前年同期比14.1%増）となりました。

（注）セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

(2) 財政状態の分析

資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ329,382千円増加し、7,472,059千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加によるものであります。また、当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末に比べ107,144千円増加し、1,119,135千円となりました。主な要因は、有形固定資産の増加及び無形固定資産の増加によるものであります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて436,527千円増加の8,591,195千円となりました。

負債の状況

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末に比べ128,421千円増加し、6,019,973千円となりました。主な要因は、買掛金の増加によるものであります。また、当第3四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末に比べ228,282千円増加し、856,946千円となりました。主な要因は、長期借入金の増加によるものであります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べ356,704千円増加し、6,876,919千円となりました。

純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ79,823千円増加し、1,714,275千円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

記載すべき事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,150,000	3,150,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り、単元株式数は 100株であります。
計	3,150,000	3,150,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日	-	3,150,000	-	363,387	-	288,387

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 100	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 3,148,900	31,489	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 1,000	-	-
発行済株式総数	3,150,000	-	-
総株主の議決権	-	31,489	-

(注) 単元未満株式のうち自己保有株式の明細は次のとおりであります。

所有者の名称	所有株式数（株）
オーウイル株式会社	36

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
オーウイル株	東京都港区北青山一丁目2番3号	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,238,523	1,749,644
受取手形及び売掛金	<sup>1</sup> 4,226,392	<sup>1</sup> 4,258,399
商品及び製品	815,459	877,968
未着商品	517,893	384,927
原材料及び貯蔵品	14,916	13,242
未収入金	242,603	123,442
繰延税金資産	17,634	15,126
その他	74,003	54,509
貸倒引当金	4,750	5,200
流動資産合計	7,142,676	7,472,059
固定資産		
有形固定資産	324,907	345,580
無形固定資産	88,112	124,529
投資その他の資産	<sup>2</sup> 598,971	<sup>2</sup> 649,025
固定資産合計	1,011,991	1,119,135
資産合計	8,154,668	8,591,195
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	4,712,310	5,017,425
1年内返済予定の長期借入金	228,348	312,802
未払金	829,093	529,576
未払法人税等	23,991	62,732
賞与引当金	37,269	23,100
その他	60,539	74,336
流動負債合計	5,891,552	6,019,973
固定負債		
長期借入金	564,365	786,992
資産除去債務	5,012	5,921
その他	59,286	64,032
固定負債合計	628,663	856,946
負債合計	6,520,215	6,876,919



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	363,387	363,387
資本剰余金	288,387	288,387
利益剰余金	940,079	1,003,189
自己株式	71	71
株主資本合計	1,591,782	1,654,892
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	29,875	43,758
繰延ヘッジ損益	7,066	7,344
為替換算調整勘定	5,727	8,279
その他の包括利益累計額合計	42,669	59,382
純資産合計	1,634,452	1,714,275
負債純資産合計	8,154,668	8,591,195

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	21,724,074	20,805,136
売上原価	19,890,256	18,993,016
売上総利益	1,833,817	1,812,119
販売費及び一般管理費	1,477,261	1,564,265
営業利益	356,555	247,854
営業外収益		
受取利息	93	184
受取配当金	4,099	4,353
為替差益	7,734	20,385
受取手数料	4,971	4,971
受取補償金	3,755	8,033
貸倒引当金戻入額	1,106	-
保険解約返戻金	-	3,200
その他	2,181	1,858
営業外収益合計	23,941	42,986
営業外費用		
支払利息	8,901	9,394
支払補償費	6,592	1,767
その他	416	465
営業外費用合計	15,909	11,627
経常利益	364,587	279,212
特別利益		
固定資産売却益	3,133	-
負ののれん発生益	12,730	-
特別利益合計	15,864	-
特別損失		
訴訟関連損失	35,857	-
特別損失合計	35,857	-
税金等調整前四半期純利益	344,594	279,212
法人税、住民税及び事業税	92,804	118,669
法人税等調整額	17,487	2,937
法人税等合計	110,292	121,606
少数株主損益調整前四半期純利益	234,302	157,606
少数株主利益	10,890	-
四半期純利益	223,411	157,606

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	234,302	157,606
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,149	13,882
繰延ヘッジ損益	332	277
為替換算調整勘定	3,137	2,552
その他の包括利益合計	11,954	16,712
四半期包括利益	246,256	174,318
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	235,366	174,318
少数株主に係る四半期包括利益	10,890	-

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	34,049千円	66,712千円

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
投資その他の資産	9,900千円	9,900千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	33,177千円	35,609千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	94,497	30	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	94,495	30	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	卸売事業	製造販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	21,062,712	90,838	21,153,550	570,523	21,724,074	-	21,724,074
セグメント間の内部 売上高又は振替高	172,516	287,645	460,161	-	460,161	460,161	-
計	21,235,228	378,483	21,613,712	570,523	22,184,235	460,161	21,724,074
セグメント利益又は セグメント損失 ( )	339,305	21,634	360,939	5,265	355,674	881	356,555

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンビニエンスストア小売業を営んでおります。

2. セグメント利益の調整額881千円は、セグメント間取引消去881千円であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において、連結子会社である㈱サンオーネストの発行済株式を追加取得したことにより、連結損益計算書において12,730千円の「負ののれん発生益」(特別利益)を製造販売事業で計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	卸売事業	製造販売 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	20,045,320	108,833	20,154,154	650,981	20,805,136	-	20,805,136
セグメント間の内部 売上高又は振替高	172,830	271,100	443,931	-	443,931	443,931	-
計	20,218,151	379,934	20,598,085	650,981	21,249,067	443,931	20,805,136
セグメント利益又は セグメント損失 ( )	237,726	9,280	247,007	1,920	245,086	2,768	247,854

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンビニエンスストア小売業を営んでおります。

2. セグメント利益の調整額2,768千円は、セグメント間取引消去2,768千円であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	70円93銭	50円4銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	223,411	157,606
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	223,411	157,606
普通株式の期中平均株式数(株)	3,149,907	3,149,864

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月13日

オーウイル株式会社

取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 齊藤 文男 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 秋田 英明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオーウイル株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オーウイル株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。